

ボランティア団体：「命のバトン」NPO目指す 信頼得て活動したい / 福井**「AED通じ、命の大切さ伝える」**

自動体外式除細動器(AED)の普及と啓発に取り組んでいる福井市のボランティアグループ「命のバトン」が、NPOの法人格取得を目指している。代表の川崎真弓さん(51)は02年、当時16歳だった娘の沙織さんを心室細動による心肺停止で亡くした。「法人格を取得して学校などでもAEDを通じて命の大切さを伝えたい」と意気込んでいる。

AEDは心臓の心室が小刻みに震える「心室細動」が発生した時に電気ショックを与えて震えを取り除く機械。機械の音声指示に従って操作すればよく、医療従事者でなくても操作ができるため、救急車到着前の重要な救命手段だ。

川崎さんの娘、沙織さんは体育祭のリレー競走で走った直後倒れ、4日後に亡くなった。亡くなった原因を調べている時に「AED」の存在を知ったという。当時、国内では医療従事者しか使用が認められておらず、「これがあれば沙織は救えたのでは」との思いですぐにAEDについて本やインターネットで調べ、救命士などのアドバイスを受けながら自身のホームページで紹介し続けた。

04年7月、AEDは非医療従事者でも使えることになり、県内でも公共施設などに次々に導入された。しかし使用方法などを知らない人が多く、川崎さんは08年、アメリカ心臓協会による一次救命の資格を取得した有志らとともにボランティア団体「命のバトン」を結成。AEDの練習キットを使って公民館などで救命方法を伝え、命の大切さを考えてもらう講座を開くなどして啓発している。

法人格取得は、社会的な組織としての信頼を得て活動を継続的で広がりのあるものにすることが目的だ。川崎さんは「取得して、人を助けるのが当たり前になる社会を目指し活動をさらに充実させたい」と話している。【幸長由子】

【関連記事】[東京マラソン：松村邦洋さん倒れ一時意識不明](#)[AED：電源、寿命間近 バッテリー交換呼び掛け - - 厚労省](#)[心肺蘇生法：中学生学ぶ 九国大付属の新1年生 / 福岡](#)